

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170400956), 法人名 (医療法人福和会), 事業所名 (グループホーム朝風1), 所在地 (札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号), 自己評価作成日 (令和元年11月1日), 評価結果市町村受理日 (令和2年1月6日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が毎日笑顔で楽しく暮らせるように本人、御家族とのコミュニケーションを大切に職員が日々ケアの向上に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170400956-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年12月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には、母体の医療機関、系列のグループホーム、ケアハウスが隣接し、行事や災害時等で協力関係にあり、医療と介護の複合施設として手稲区に立地している。手稲の山並みが眺望でき、中庭の花壇やロードヒーティングの遊歩道があり、安全に散策できる環境にある。清掃活動など、地域の行事に利用者と参加している。幼稚園児、小学生との交流は、心むむ場面となっている。利用者は得意分野で力を発揮、編み物、洋服のお直し、職員と昆布巻作り、各自に配布された市の広報誌や新聞に目を通し、選挙の不在者投票に出かけ、天気の良い日は自ら外に出て、散歩やボール投げ、ベンチでお喋り、シャボン玉飛ばし、畑の野菜の成長を眺めている。DVDで昔の札幌の様子を觀賞し、家族参加型のバスレクで現在の札幌巡りを行っている。利用者から「ここに来て良かった。良いところに来た。」との言葉が聞かれていると言う。介護理念の「ゆつくり・一緒に・楽しい暮らし」を実践している事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努める事を法人理念として掲げゆくり、一緒に、楽しく、地域に根差して生活できる事を目標に日々取り組んでいます。。	法人の運営理念と介護理念を共有し、入社時に理念の重要性を伝えている。名札の裏面に理念を記載し、さらに、理念を具体化した「介護の心得」と「私達の道標」を掲げ、ケアに生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の総会や公園の清掃に参加、小学校の運動会見学、小学校の資源回収に協力、近隣幼稚園の年長さんとの交流も続いています	町内会行事に利用者と参加をし、また、町内会の見学を受け入れている。クリスマス行事での幼稚園児の遊戯のお礼として、利用者が編んだ靴下にお菓子を入れて渡している。利用者はお賽銭を持って、子供神輿を出迎えるなど、地域の一員として暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方に日々行っている支援の報告を行い認知症への理解をいただいています。又地域の人に役立つ情報も提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近年地震や水害などの災害が続いており防災対策を町内の皆さんと話し合ったり市の出前講座を利用し災害時の行動や日頃の注意等学んでいます	会議は、隣接の事業所と合同で、定期的開催している。町内会関係者や行政、多数の家族の出席を得て、活動報告後に外部講師による災害対策を学んでいる。意見や要望、情報を運営の質向上に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護度申請、介護度区分変更申請、生活保護受給者の連絡などで市の担当者と連絡を取りあい協力関係を築いています	行政との関わりは、管理者が担っている。各種提出物や市の管理者会議への出席、ケースワーカー来訪時、運営推進会議時等の各担当者とは、情報を共有している。相談事は電話や担当者で面談し、助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け指針を作り身体拘束のないケアを実践しています。玄関の施錠は夜間のみ防犯上の理由でおこなっています。	身体拘束廃止や虐待の防止に向けて、指針やマニュアルに沿っての適正化委員会の開催、外部・内部研修会等で適切なケアへの周知徹底を図っている。職員間でも、注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外で実施されている研修への参加、及び通達を確認しながら職員への周知を行っている。また研修内容を合同会議で発表し意見交換を行い防止の徹底を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人をつけた事例があり制度についての研修に参加し理解を深めることができました。今後に役立てたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時 利用者、家族に十分な説明と話し合いをもち理解と納得をしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者、家族の意見、希望に耳を傾け毎朝のミーティングやフロア会議、運営推進会議においてに反映している。	家族来訪時には、個別のアルバムを見て頂いたり、定期的に発行しているユニット便りや、担当職員による都度の手紙で、利用者の様子を報告している。家族とは、電話で意見を傾聴するなど、意思疎通に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は共に現場で考え助言する統括ホーム長を組織の中に置いており毎日のミーティング時または必要時話し合いを持ち職員の意見の反映につとめています。	統括ホーム長は、都度事業所を訪れ、管理者と業務改善に向け話し合っている。職員は利用者の居室を担当し、レクなどの各業務は全職員で担っている。自分達で解決できることは職員間で意見を交換し、運営やケアの向上に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括ホーム長に職場状況を日々報告し環境整備、条件の整備をはかっていただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	札幌市やグループホーム協会主催の研修に参加しまた院内研修も多くなり個々の質の向上に努めています。また職員の資格習得のための勤務調整もしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に出席し意見交換を行っています。災害時の対応や急変時の対応など参考にしています。また他の施設の方の訪問もありました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受付窓口は運営法人の相談員で入所前より相談員より情報をいただいております、また施設見学时に不安なこと、希望などに耳を傾け良い関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時利用者、家族から不安なこと希望が出しやすい雰囲気づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族、本人の要望を確認し、できる事出来ない事をしっかり説明する事で、信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学び得る事は多々あり(人生の先輩)職員はその入居者の歩んできた道を大切に接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には月1回は面会に来ていただく様にさせていただいております、その時に近況報告し又バスレクリエーションにはご家族の参加促し共に楽しんでいただくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊や家族、知人、親類の面会の時間や馴染みの方への手紙での交流を大切にしています	利用者は、個別に配布された市の広報誌や新聞を読み、不在者投票に行っている。DVDで昔の札幌の様子を觀賞したり、職員に昔の話を聞かせている。家族と教会や外食、美容室等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動(ジグソーパズル、計算問題など)においてはできた人ができていない人を自然に教えあっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族が時々ホームに来られ相談されたり近況報告していきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人御家族の意向を聞くようにしており、本人の立場に立ったケアプランの立案、実践評価を通して思いやり意向をしっかりと捉える努力をしています。	個別のノートを用意し、介護記録以外でも、身体状況、ふとした言葉、ささいな出来事、家族との関わり等を記録している。さらに、家族からの情報を踏まえて、利用者の思いや要望を押し量り、満足感が得られるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出生から現在までの生活歴を書いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護師が毎日健康チェックして記録しています。介護記録に毎日の過ごし方を記録しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム、家族、本人(難しい場合本人の意向)を含めて共同で作成している。昨年個人ノート作成し入居者様の状況がわかりやすいようにしました。	介護計画更新時は、関わりから得た利用者や家族の意向を最優先にしている。個別の記録、医療従事者の意見を取り入れ、職員全員で評価・課題分析を経て、目標や支援内容を立案している。計画と介護記録は、連動している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、その結果をプランの見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	期間に応じ見直しを行っており、又、本人の変化が生じた時にはその都度対応を検討し、プランの修正をおこなっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園との交流会や、立花病院で行われる納涼祭、盆踊り、敬老際、Xmas会、毎週金曜日に行われるカラオケに参加カラオケは4名の方が毎週歌っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である協力医療機関や、他科など利用者」が希望する医療機関への支援体制も確保しています。看護師が日常的な健康管理や受診経過の把握、医師との連携で医療支援に努めています。	母体の医療機関から月1回の往診があり、さらに、年1回定期健康診断が行われている。従来のかかりつけ医への受診は、基本的に家族対応とし、情報は共有している。各管理者始め職員も看護師が多く、早期の受診に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり日常の健康管理を毎日行っており常に職員に助言、対応を行い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換、共有しつつ、入院中も安心して過ごせるよう配慮、支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階から、かかりつけ医、経営者 管理者 と家族で随時話合いの場を設けてその都度方針を確認しあっています。	重度化に向けた指針に沿って、医療関係者や利用者、家族と情報を共有し、利用者の尊厳に配慮したケアに努めている。終末期の対応は、他の介護施設か医療機関の選択を、家族に一任している。	重篤時の対応について、事業所で出来ること出来ないことを明確化するなど、指針の整備を考慮しているため、その取り組みと、整備後は新たに家族に説明し、同意を得ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院と医療連携をとっており急変時は日中、夜間共に診察を受けれる体制になっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いつ災害が起きるかわからないので防災用品の点検や火災訓練、洪水訓練、地震訓練をしています	法人合同で、消防署や系列事業所の協力を得て、火災、停電、地震、水害、消火器の取り扱い等を含む、日中・夜間想定避難訓練を実施している。訓練では、利用者手作りの防災頭巾を被り、非常食を食すなど、実践的訓練が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを守り、言葉や、語調について配慮し支援しています。	接遇については、理念は基より、「介護の心得」「私達の道標」で、職員の共通理解に繋げ実践に努めている。利用者の呼称は、利用者や家族の要望に沿っている。個人記録の取り扱いも適切であり、何事も職員間で注意し合える態勢にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	バスレクリエーションで行きたいところやランチで食べたいもの、誕生会では何が食べたいか本人にまず意向を聞き支援するよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせて、必要な支援を行っている。又本人のペースを尊重しつつ体力や、状態にあわせた生活の組み立ても考え支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ、訪問理容、美容を利用し、一人一人が大切にしているおしゃれや身だしなみを支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューにより野菜の皮むきを手伝ったり、昆布巻き作りを全員でしたり、できること、やりたいことはしていただいています。又個々の誕生日には希望のメニューにしています。	栄養バランスに配慮した栄養士による献立に沿って、利用者と食事作りを行い、会話をしながら一緒に食している。外食の楽しみもあるが、利用者と昆布巻を作り幕の内弁当の惣菜にしたり、菜園で採れた野菜やサクラamboを活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1000mlの水分を取るよう支援しています。専属の栄養士が栄養バランスを考えた献立を作り個々の状態に応じた食べ方を指導してくれています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨きをしていただいています。自力でできる人は声かけしています。出来ない方はこちらで支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が自由にトイレに通えるように環境整備し、又時間毎にトイレ誘導し排泄の失敗を少なくしています。	自力でトイレに向かう方や、声かけや誘導を行うなど様々だが、トイレでの排泄を基本として支援している。布下着や衛生用品を使い分け失敗の軽減になっているが、ユニット5カ所のトイレ設置も、改善の一つとなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の出る時間を把握しトイレ誘導しています。又食事メニューに繊維質のあるものを取り入れたり、水分を多めにとっていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態を把握し、配慮しながら実施している。本人の意向で熱い湯、ぬるい湯と調整したり、入浴剤で温泉気分を味わっていただいたり入浴を楽しんでいただいています。	週4回を入浴日としているが、週2回を基本として入浴支援を行っている。湯船の中で寛げるよう複数で介助を行い、状況によりシャワー浴も取り入れている。入浴剤の香りや会話、歌などが、楽しみ事になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休めないとき、職員が話し相手になったり眠れるよう1人1人に合った方法や環境を把握し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示に基づき、わからないところは確認しながら服薬の支援と変化の確認につとめている。誤薬がないようスタッフ間で声かけしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等の情報から職業や趣味を生かし役割分担や行事参加等の楽しみを利用者とともにを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と昼食を共にするためや教会へ行かれるために外出したり、毎日の天気に合わせて戸外散歩や買い物に出かけたり、バスレクレーションで水族館や大きな公園行ったり、外食にでかけたりしてます。	利用者の意志で周辺を散歩したり、裏庭のベンチで会話を楽しみ、中庭でボール投げ、また、畑作業を行い、イモや大根、枝豆等を味覚祭で味わっている。家族に声かけし、バスレクで近郊を廻り、外食等で日常に変化を付け、程よい刺激に繋げている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の認知能力に応じてお金を所持させています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の認知能力により電話や手紙を書いていただいております、相手よりお手紙が来るととても喜んでおります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾をし又利用者の作品や写真を貼り楽しみがもてるようにしています。入居者の作品(編み物、折り紙等)を展示して皆さんに見ていただいております	事業所全体が広々とした造りで、居間は、食事と寛ぐコーナーを別々に設け、利用者は、それぞれの居場所で過ごしている。クリスマスグッズや幼稚園児の作品、習字など、利用者の作品等が飾られ、親しみある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのソファの座る位置がそれぞれきまっており、それぞれが一番安心できる場所になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの衣類、タンスや机、イス壁掛け化粧品、をもってきていただき、本人が心地よく過ごせるよう置き場所を配慮しています。	ベット・寝具・カーテンが備え付けられた居室には、利用者や家族が選んだ調度品や家族写真、趣味の物が持ち込まれている。職員は、安心安全に過ごせる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路、トイレ浴室には手摺がついており安全に使用できる。各スペースも広くつくられているので車椅子でも安全に過ごすことができる。		